

令和7年度 学校評価報告書

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加を目指し、小学部から高等部までの教育内容を見直し、キャリア教育の観点から、系統的に再編成し、教育課程の改善を図る。	①キャリア教育の観点から、学習単元を整理し、学びの連続性の構築に向けた教育課程の編成を推進する。 ②開校50周年を意識した授業を行い、児童生徒が自分の学校に愛着を持てるようにする。	①知肢統一における各学部の学習内容と校外行事(泊を伴う行事を含む)の連続性・系統性のある教育課程について、学部行事チームを中心に検討する。 ②年間を通して、計画的に開校50周年を意識した学習に取り組む。	①知肢統一の諸課題と校外行事の連続性・系統性のある教育課程について検討して改善することができたか。 ②児童生徒が自分の学校に愛着を持ち、50周年を意識した学習に取り組むことができたか。	① 知肢統一や校外行事の連続性・系統性のある教育課程について、整理を行った。 ② 開校記念日に校長のビデオレター、12月に50周年記念式典、記念芸術鑑賞会を行った。	① 知肢統一と校外行事の連続性・系統性について継続して検討し、周知していく。 ② 周年行事でない年も開校記念日についてふれていく。	<保護者> 82%が良い評価 <学校運営協議会> 児童・生徒に必要な学習を今後も継続して欲しい。 <保護者> 58%が良い評価 <学校運営協議会> 様々な取り組みをアピールする必要がある。	知肢統一について、関連のある学部学年で工夫した取り組みを行うことができた。校外行事において連続性・継続性について整理した。 記念式典や記念鑑賞会、キャラクターの誕生により、自分の学校に愛着を持つことができた。	児童・生徒の豊かな成長のために、意見を出し合い、更なる工夫・改善を進めていく。 今後も自分の学校に愛着を持つことができるように取り組んでいく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	主体的に学び、課題を解決する力の獲得を目指し、児童・生徒一人ひとりの実態に応じた指導・支援に取り組むとともに「わかる」授業を行うための授業改善を行う。	①児童・生徒の実態を客観的に捉え、児童・生徒のニーズに応じた指導・支援を行う。 ②一人1台端末を活用して、主体的に学ぶことができる授業を展開する。	①フォーマルアセスメントを活用し、新個別教育計画と年間指導計画を作成し、関係者間で共有して指導・支援を実践する。 ②児童・生徒が主体的にICT機器を活用した授業について、情報整備チームを中心に情報教育を推進していく。	① 新個別教育計画と年間指導計画を活用して、児童・生徒のニーズに応じた指導・支援を行うことができたか。 ②児童・生徒が一人1台端末を活用して、主体的に学ぶことができたか。	① 新個別教育計画で評価が年1回になった。児童・生徒のニーズに合った指導・支援を実践できた。 ② 大型電子黒板の導入があり、教員による定期的なミニ研修会を行い、ICT教育の推進を行った。	① これから保護者の意見が出てくる可能性がある。新書式を検証していく。 ② 一人1台端末の使用方法について、より検討していく必要がある。	<保護者> 90%が良い評価 <学校運営協議会> 新個別教育計画の1年経過の見直しを行っていき。 <保護者> 56%が良い評価 <学校運営協議会> 今の時代の児童・生徒の実態に合わせて、コミュニケーションツールの一つとなるようにICT活用を進めていく。	新個別教育計画と年間教育計画に関連性を持たせ、各教科の目標や学習内容を明確にすることができた。 タブレットや電子黒板等のICT機器は整備され環境は整ってきている。児童・生徒が主体的に取り組むことができる授業を模索していく。	全学習の基盤となる力を育むために、校内研究を通して、自立活動について理解を深めていく。 情報教育が組織的に模索されるように推進していく。
3 進路指導・支援	地域での豊かな生活や「なりたい自分」を思い描き、自ら進路選択を実現できるような指導・支援を行う。	①キャリアパスポートを活用し、次のステージを想定して、児童・生徒が自信をもって取り組めるキャリア教育を実践する。 ②地域や関係機関と連携を図り、児童・生徒の社会参加に結び付く、指導支援を行う。	①キャリアパスポートの目的や意義について、児童・生徒、保護者と共通理解しながら、活動について振り返りを行う。 ②地域資源を活用し、地域や関係機関の人と関わりを持つ機会を設定する。	①キャリアパスポートを活用し、有効な指導に結び付けることができたか。 ②地域の資源を活用した授業を設定したか。学校内外の人と関わりを持つ機会を設定できたか。	① キャリアパスポートは定着した取り組みになってきており、活動について振り返ることができた。 ② ゲストティーチャー等の地域資源を活用した取り組みを積極的に実施できた。	① キャリアパスポートは定着してきているが、再検証していく。 ② 学部間の連続性を考え、系統的な取り組みを検討していく。	<保護者> 81%が良い評価 <学校運営協議会> 見直しの時期となっているので、検証している。 <保護者> 83%が良い評価 <学校運営協議会> 地域との取り組みを大切にして学習できている。より多くのことに取り組んで欲しい。	キャリアパスポートの取り組みは定着してきている。より有効なものにするために再検証が必要である。 地域資源を活用した取り組みを深めることができた。児童・生徒の発達段階に応じた継続的な取り組みが必要である。	より効果的なキャリアパスポートについて検討し、教員と保護者ともに理解を促していく。 学部間の連続性のある取り組みにして検討していく。
4 地域等との協働	共生社会の実現を目指し、地域との連携や相互資源活用を通して、共生社会の担い手となる人を育てる。	① 相互資源活用により、地域の学校との交流や共同学習を定着・発展させ、共生社会の実現に向けて理解推進を図る。 ②地域や近隣施設と協働して地域防災力を強化する。	① 各学部にTMAPの理念を浸透させ、地域や近隣の学校等、交流や共同学習を推進し、地域資源を活用した授業を設定する。 ②学校運営協議会に新たに設置した部会で地域の防災について連携を図る。	①交流等を通して、児童・生徒間の相互理解が進んだか。また、取り組みを地域や保護者に発信することができたか。 ②地域や近隣の学校と協力体制を結べたか。	① 近隣住民への挨拶、地域での作業製品販売、高齢者施設での交流等のTMAPを行った。 ② 交流及び共同学習の機会を計画的に実施できた。	① 継続してTMAPを推進して内容を深めていく。 ② 交流の実施が難しかったケースについて、理解を促していくように努める。	<保護者> 72%が良い評価 <学校運営協議会> 地域資源を有効活用して取り組むことができた。今後更なる進化に期待する。 <保護者> 65%が良い評価 <学校運営協議会> 子どもたちを地域で育てることができるよう今後も地域との協働が必要である。	積極的に地域資源を活用した取り組みをすることができた。児童・生徒の発達段階に応じた継続的な取り組みが必要である。 各学部ともに交流学習及び共同学習についてほぼ計画通り実施することができた。希望がかなわなかった交流については相手校の理解を促していく。	TMAPについての理解を深め、学部間の連続性のある取り組みについて検討していく。 関係者でねらいを共有して、地域や近隣学校に計画的に発信していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	<p>安全な環境を整備し、児童・生徒が安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。</p> <p>個の資質に大きく依存しない組織であり、人権を大切にしたい「学び合い」「支え合う」組織づくりを促進する。</p>	<p>①児童・生徒が自ら身を守る力や支援者としての力をつけられる防災教育に取り組む。</p> <p>②教職員一人ひとりが主体的に課題意識を持ち、同僚性を高め、互いを支えあう。</p>	<p>① 発達段階に応じた避難訓練等の防災教育を通して、児童・生徒が自ら身を守る行動がとれるようにする。</p> <p>②不祥事防止、働き方改革、人材育成等について、研修等を定期的に行う。コミュニケーションを大切にして、互いの心身の変化に気づけるようにする。</p>	<p>①防災教育を通して児童・生徒が自ら身を守る行動がとれるようになったか。</p> <p>②諸課題を自分事と捉えて行動することができたか。業務改善を図り、教員同士、コミュニケーションを図り、同僚性を高めることができたか。</p>	<p>① 避難訓練、シェイクアウト訓練や防災教育等で、児童生徒が自ら身を守る行動が定着してきている。</p> <p>② 毎月の不祥事防止研修に加えて、外部講師等を招いた研修を行い、課題意識を高めることができた。</p>	<p>① 引き続き災害時を想定した訓練や学習を積み重ねていく。</p> <p>② 今後も定期的に振り返るようにして、事故・不祥事防止に取り組んでいく。業務改善について自分事として考えて改善案を考えていく。</p>	<p><保護者> 84%が良い評価 <学校運営協議会> 地域防災部会を立ち上げたことにより、地域と顔の見える関係を作っていけると良い。</p> <p><保護者> 74%が良い評価 <学校運営協議会> 自分事として誰にでも起こりうることとして捉えていって欲しい。</p>	<p>避難訓練やシェイクアウト訓練で、自ら命を守る行動が身についてきている。肢体不自由の児童・生徒の避難について検討が必要である。不祥事防止研修等を踏まえて。人権意識を高めることができた。自分事として捉えられるように継続して取り組んでいく。</p>	<p>地域との連携を地域防災部会で深めていく。肢体の児童・生徒の避難方法について、学部・グループで検討する。 教職員一人ひとりが人権を大切にしたい教育活動、職場づくりを展開していく。</p>